

平成 2 7 年度柏原市立歴史資料館等運営協議会

会 議 録

日 時 平成 2 7 年 5 月 2 7 日（水）

午後 2 時～ 3 時 5 0 分

場 所 柏原市立歴史資料館研修室

会議出席者

委員

塚口義信（会長）、荻田耕司（副会長）、木下百合子、綿貫友子
山根眞一、中野 武、藤井 勇

事務局

吉原 孝（教育長）、尾野晋一（教育部長）、藤田裕邦（教育部
次長兼文化財課長）、桑野一幸（文化財課参事兼課長補佐）、安
村俊史（文化財課主幹兼歴史資料館館長）、山根航（文化財課係
員）、天野忠幸（文化財課囑託）

記録：安村俊史

1. 開会（14 時）

進行・安村

2. 吉原孝教育長あいさつ

3. 委員紹介

4. 事務局紹介

5. 議事〔塚口会長による議事進行〕

①副会長選出

副会長の養原正委員の逝去に伴い、新たに副会長を選出。立候補はなく、事務局案を提示し、委員全員の承認により副会長に荻田委員を選出。

②平成 26 年度事業報告

（1）歴史資料館関係 安村報告

（2）横穴管理運営関係 桑野報告

〔別添資料参照〕

【質疑】

○展示施設・環境の改善計画について

委員：展示施設の劣化に伴う改修改善、たとえばLED照明の導入や空調設備の改修などの予定はどうなっているか。

事務局：開館から 23 年になり、施設の劣化はかなり進んでいる。しかし、財政的にむずかしい状況にあり、今のところ具体的な計画は立てることができていない。

委員：財政的な問題は理解するが、施設の維持管理は避けられないので、計画的に進めていただきたい。

委員：柏原市の財政状況は、どうなっているか。

事務局：今年度は基金を取り崩さなければならない状況にあり、かなり厳しい現状にある。

委員：柏原市の人口の増減はどうなっているか。

事務局：平成 7 年に 8 万人を超えたが、それ以降減少が続いており、現在は 7 万 1 千人余りである。

○横穴の保存工事後の状況について

委員：人物の壁画のある横穴の保存工事を実施したあと、保存状況等に変化は見られるか。

事務局：工事はガラス扉を設ける程度のもので、大規模な工事ではない。その後、保存状況に大きな変化は見られない。苔・黴等の問題は続いており、その原因の解明も含めて、観察を続けている。

○学校教育との関わり

委員：秋・冬の展示見学だけでなく、出前授業、初任者研修、教員の自主的な研修などで、小学校では盛んに資料館を利用させていただいていることに感謝している。今後も協力関係を進めていきたい。

委員：学校教育については、少しずつ進められていると考えている。教育委員会でも「柏原学」の普及を目指しており、当館としても積極的に進めていきたい。

○市民歴史クラブについて

委員：市民歴史クラブの活躍に注目している。どのような経緯で設立され、活動されているのか。

事務局：当初は自主的に歴史学習を行うサークルとして、当館が呼びかけて発足した。その後、展示への参加などによって活動の幅が広がってきた。そのうえで、横穴公開日の案内や冬の展示を見学に来る小学校に体験学習として実施しているなわなの準備や当日の指導など、ボランティアとしての活動も進んでいる。

○中学・高等学校への働きかけについて

委員：小学校の来館者が非常に多く評価できるが、中学・高等学校への来館呼びかけ等を行っているのか。

事務局：展示案内等はそのつど送付しているが、時間がとれないということもあり、来館には結びついていない。

委員：高等学校でも、授業での取り組みはむずかしく、歴史関係の部活動もないため、関わりはむずかしいかもしれないが、何らかの方法を考えてみたい。

②平成 27 年度事業計画

(1) 歴史資料館関係 安村報告

(2) 横穴管理運営関係 桑野報告

〔別添資料〕

【質疑】

○遺跡の案内板等について

委員：遺跡の説明板で傷みの激しいものが多いので、修繕をすすめてもらいたい。また、遺跡への案内板が不足しており、駅前への大きな地図の設置などにも必要ではないか。

事務局：年 2 基の説明板設置費が予算化されているのみである。傷んだものは順次修繕しているが、新たに設置するものもあり、十分に対応できていない状況にある。駅前等の案内板については、今後の課題とさせていただきたい。

○他市町との共催事業について

委員：亀の瀬をテーマにした府県をまたいでの共催事業を評価したいが、竜田道等をテーマにしたさらに広域の共催事業を実施できないか。

事務局：今回の展示は初めての試みであり、充実したものができたと考えている。一方で、

広域での取り組みは、調整等でむずかしい面もある。今回の経験をもとに、今後も機会をとらえて共催事業を実施していきたいと考えている。何か提案があれば、お願いしたい。

委員：将来、大和川に伴う広域の連携ができればいい。

③その他

事務局：入館料の徴収と指定管理者制度の導入について再度検討するようにとの指示がある。これまでも何度も運営協議会で審議いただき、無料を継続すべき、指定管理は資料館の運営になじまないという意見をいただいているところであるが、もう一度委員の方々の意見を伺いたい。

委員：資料館は文化財保存等の使命があり、利益を生み出す施設ではない。指定管理はなじまない。

委員：研究の重要性や、市民との信頼関係のもとに当館の運営がなされている現状を考えると、指定管理は導入するべきではないと考える。

委員：当館の存在意義を考えると、採算性を求めるべきものではなく、無料、直営をぜひ続けてもらいたい。

委員：柏原市の歴史・文化を守り、伝えていくことが当館の目的であり、それによって人の心を育てるような施設であってほしい。採算性を求めるべきではない。

委員：こどもたちに歴史を伝えていくことが大きな目的だという認識のもと、何が必要かと考えてもらいたい。そのように考えると、現状の体制で、さらに発展を図っていくことを期待したい。

委員：施設の管理だけならば指定管理も可能かもしれないが、スタッフの知識・研究などの継承を考えると、指定管理は無理だろう。小さい資料館ではあるが、全国に誇れるような歴史、資料の存在を考えると、現在の体制をさらに充実させていくことを考えていくべきではないか。

委員：小学校との深い関わりなどを考えると、直営は当然であろう。財政的な問題はあるが、現状の体制をさらに充実させて博物館をめざしてほしいと思っている。運営協議会の意見としては、無料を継続すべき、指定管理者の導入は避けるべきということでもめさせていただきたい。

6. 閉会

尾野教育部長あいさつ

(終了 15 時 50 分)